

令和5年度 第1回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和5年6月20日（火）13時30分～15時30分

四国森林管理局 6階研修室

2 議事概要

【委員会の検討結果】

製材品の荷動き、丸太の動きが鈍化しているとの声が聞かれる中、特にスギ丸太については価格の下落傾向がみられるが、山側の出材については、梅雨や台風など天候に左右されやすい時期であり出材自体が不安定になることや原木価格の下落を受けて出材が少なくなること、等を心配する意見もあり、国有林には安定した供給が求められている。

このため、国有林材の供給調整を行う必要はないが、引き続き民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくべきである。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 4月に林業事業者へ聞き取った状況では、昨年の生産量を若干上回る状況。一方で原木単価の低下を受け、生産量を抑制する動きも見られる。
- ・ 木材価格は低迷しているが、生産活動、出材状況は例年並み、生産調整は行っていない。
- ・ 天候不順な日々が多く作業道作設において支障が生じる等から、円滑な生産活動に支障があり、通常の約2割弱程度の減少と感じる。先行きも長期的な気象情報では6月及び7月前半は平年並みの曇りや雨の日が多いとされ、スムーズな生産活動が見込めない。

○ 原木市場・共販所

- ・ 入荷量は減少気味だが、今年度に入りスギの割合が増えてきている。今後は梅雨、台風等の天候に左右されやすく出材自体も不安定になるのではないかと懸念。買方の動きもヒノキはまだ引き合いがあるものの、スギに関しては全体的に状況が悪い。また、虫害等による買い控えも心配されるところである。

価格に関しては、ヒノキは比較的安定しているが、スギは3m材は横ばい、4m材は18～22cm以外は値下がり傾向である。

- ・ 全体の入荷量は少なめ。ヒノキに関しては4m材は出荷が少なめなのか動いてい

るが、スギの動きは最近になり非常に悪くなっている。今後、天候や虫害のため出荷量は低下すると予想するが、荷動きは暫く悪い状態が続くと思われる。

価格についても、直材は価格を維持できているが、小曲になると大きく落ちる。虫も入り始めているため、ある程度値段を妥協し早く売る状況にあり、現状からは値上がりすることはないと思われる。

- ・ 3月～5月の入荷量については、ヒノキは前年比100%で横ばい。スギは同56%で減少が大きい。今年は梅雨入りが早く天候が素材生産に影響することもあり一時的に減少すると見込む。荷動きについては、スギ、ヒノキとも製品の動きが悪いため、原木の動きも鈍化している。

価格に関しては、スギは5月に入り弱保合で推移。中でも3～4m材の30cm上は全体に弱含み。ヒノキは3月以降弱含んでいたが、ここにきて概ね横ばいの状況で下げ止まりの様相。小幅な値動きはあると思われるが、現在の状況で推移すると見込んでいる。

○ 製材工場等

- ・ 製品価格は下落傾向。管柱では杉よりも集成材が安い傾向。在庫がダブついてきており、投げ売りまでは言わないが売れない状況。今後価格は下げ止まるだろうが、住宅着工数は過去最大の落ち込みを予測、外材価格の下落により、国産材は厳しい状況にある。

戸建て新築住宅の最近の状況は、床面積が縮小、平屋の増加、住宅購入者の買い控え（新築から中古へ）など、木材需要を押し下げている。また、売建住宅は減少し建売住宅が主流となってきており、資本力が小さい工務店や不動産業者の建築意識も小さくなってきている。こういった時代の変化を前提として、新たな補助事業等の導入など、今後どうするかを検討することも必要と感じる。

- ・ 国産材ヒノキの限定的な話にはなるが、原木調達は順調。今期の生産予定（78,000m³）は、スポット的な増減はあるが、余程のことがない限り予定通り生産できる見込み。

製材品については、生産分は販売できているが、柱、土台が中心、受注も増えているが価格は月ごとに下落。羽柄材は全体的に苦戦中で、価格を大幅に下げてもなかなか販売できず在庫が増える状況にある。全体的に価格面では不安は残るが、価格を合わせていけばなんとか予定通り販売できると見込んでいる。

国有林材については、通年、安定的な供給が望ましい。

- ・ 原木はダブつき始めた。低級材、太い丸太が特に余っている。四国内はまだ相場を維持しているが、他はウッドショック前より安い。価格が下がって出材が少なくなるのが心配である。製品に関しても新年度に入っても売りづらい。価格も値下げ傾向である。